

会員事業所景況実態調査令和6年1月～令和6年6月分集計結果
調査依頼数:200 回答数 59 回答割合:29.5%

令和6年度1回目の会員事業所景況実態調査の調査結果について下記のとおりに報告いたします。
 調査結果については、今後の要望・提言活動や経営相談に活用してまいります。
 ご回答いただいた事業所の皆様、お忙しいなか、ご協力ありがとうございました。

★DI値とは

各項目について、増加・好転(仕入単価:下落、従業員:不足)と回答した事業所の割合から減少・悪化(仕入単価:上昇、従業員:過剰)と回答した事業所の割合を減じた数値。
 ゼロを基準とし、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

【質問 A】 前年同時期と比較した1月～6月の景況

	項目	増加・好転	不変	減少・悪化	合計	DI値	前回DI値	対比増減
全体	売上	10	32	16	58	▲ 10.3	▲ 3.8	▲ 6.5
	採算	8	33	17	58	▲ 15.5	▲ 21.5	6.0
	仕入単価	0	15	43	58	▲ 74.1	▲ 71.4	▲ 2.7
	従業員	28	27	3	58	43.1	42.9	▲ 0.2
	業況	6	34	18	58	▲ 20.7	▲ 15.2	▲ 5.5
	資金繰り	9	42	7	58	3.4	▲ 19.0	22.4
建設・建築業	売上	1	8	3	12	▲ 16.7	▲ 11.1	▲ 5.6
	採算	1	8	3	12	▲ 16.7	▲ 11.1	▲ 5.6
	仕入単価		5	7	12	▲ 58.3	▲ 64.7	6.4
	従業員	6	5	1	12	41.7	58.8	17.1
	業況	1	8	3	12	▲ 16.7	0.0	▲ 16.7
	資金繰り	3	8	1	12	16.7	0.0	16.7
製造業	売上	3	5	2	10	10.0	▲ 12.5	22.5
	採算	3	5	2	10	10.0	▲ 37.5	47.5
	仕入単価		2	8	10	▲ 80.0	▲ 87.5	7.5
	従業員	4	5	1	10	30.0	50.0	20.0
	業況	2	5	3	10	▲ 10.0	▲ 37.5	27.5
	資金繰り	2	6	2	10	0.0	▲ 25.0	25.0
卸・小売業	売上	1	6	5	12	▲ 33.3	18.8	▲ 52.1
	採算	2	5	5	12	▲ 25.0	0.0	▲ 25.0
	仕入単価		2	10	12	▲ 83.3	▲ 81.3	▲ 2.0
	従業員	5	7		12	41.7	31.3	▲ 10.4
	業況	1	7	4	12	▲ 25.0	6.3	▲ 31.3
	資金繰り	2	10		12	16.7	▲ 6.3	23.0
飲食・サービス業	売上	1	6	2	9	▲ 11.1	23.5	▲ 34.6
	採算		4	5	9	▲ 55.6	▲ 17.6	▲ 38.0
	仕入単価		1	8	9	▲ 88.9	▲ 75.0	▲ 13.9
	従業員	7	2		9	77.8	35.3	▲ 42.5
	業況	1	5	3	9	▲ 22.2	0.0	▲ 22.2
	資金繰り		7	2	9	▲ 22.2	▲ 11.8	▲ 9.6
不動産・その他	売上	4	7	4	15	0.0	▲ 35.0	35.0
	採算	2	11	2	15	0.0	▲ 45.0	45.0
	仕入単価		5	10	15	▲ 66.7	▲ 60.0	▲ 6.7
	従業員	6	8	1	15	33.3	42.1	8.8
	業況	1	9	5	15	▲ 26.7	▲ 50.0	23.3
	資金繰り	2	11	2	15	0.0	▲ 50.0	50.0

(全体)

採算、資金繰りは前回より改善しており、特に資金繰りはDI値が20ポイント以上改善しプラスに転じている。一方、その他の項目では前回より若干の悪化ではあったが、仕入単価はDI値▲70ポイント以上、従業員はDI値40ポイント以上とさらにマイナスポイントが高くなっている。

(建設・建築業)

仕入単価、従業員、資金繰りは前回より改善しており、従業員、資金繰りはDI値が10ポイント以上改善し、さらに資金繰りではDI値がプラスに転じている。しかしながら、DI値を見ると、仕入単価は▲60ポイント近く、従業員は40ポイント以上と依然として厳しい状況が続いている。

(製造業)

全項目において前回より改善しており、仕入単価以外は大幅に改善している。売上、採算はDI値がプラスに転じ、資金繰りはプラスマイナスゼロまで回復している。しかしながら、仕入単価では依然としてDI値が▲80ポイント台と非常に高く依然として厳しい状況が続いている。

(卸・小売業)

資金繰り以外は前回より悪化しており、特に仕入単価、従業員以外はDI値が大幅に悪化している。DI値を見ると、仕入単価は▲80ポイント以上、売上は▲30ポイント以上、従業員は40ポイント以上とさらに厳しい状況になっている。

(飲食・サービス業)

全項目において前回よりDI値が大幅に悪化し、特に採算ではDI値が▲50ポイント以上、仕入単価ではDI値が▲80ポイント以上とマイナス

ポイントが非常に高くなっており、従業員でもDI値が70ポイント以上とプラスポイントが非常に高くなっている。

(不動産・その他)

仕入単価以外は前回より改善しており、従業員以外は大幅に改善している。特に売上、採算、資金繰りはプラスマイナスゼロまで改善している。一方、仕入単価ではDI値の悪化は少ないが、DI値は▲60ポイント以上と依然として厳しい状況が続いている。

【質問 A】 6月と比較した7月～9月の先行き見通しについて

	項目	増加・好転	不変	減少・悪化	合計	DI値	前回DI値	対比増減
全体	売上	13	32	14	59	▲ 1.7	▲21.5	19.8
	採算	10	38	11	59	▲ 1.7	▲36.4	34.7
	仕入単価	0	24	35	59	▲ 59.3	▲58.4	▲0.9
	従業員	30	29	0	59	50.8	44.9	▲5.9
	業況	9	33	17	59	▲ 13.6	▲18.8	5.2
	資金繰り	6	48	5	59	1.7	▲21.5	23.2
建設・建築業	売上	1	10	1	12	0.0	▲27.8	27.8
	採算	1	11		12	8.3	▲38.9	47.2
	仕入単価		7	5	12	▲ 41.7	▲58.8	17.1
	従業員	6	6		12	50.0	58.8	8.8
	業況	2	8	2	12	0.0	▲11.1	11.1
	資金繰り	1	10	1	12	0.0	▲11.1	11.1
製造業	売上	3	5	2	10	10.0	▲37.5	47.5
	採算	3	6	1	10	20.0	▲57.1	77.1
	仕入単価		6	4	10	▲ 40.0	▲75.0	35.0
	従業員	5	5		10	50.0	25.0	▲25.0
	業況	2	5	3	10	▲ 10.0	▲50.0	40.0
	資金繰り	1	8	1	10	0.0	▲25.0	25.0
卸・小売業	売上	3	6	3	12	0.0	▲43.8	43.8
	採算	1	6	5	12	▲ 33.3	▲43.8	10.5
	仕入単価		3	9	12	▲ 75.0	▲62.5	▲12.5
	従業員	5	7		12	41.7	43.8	2.1
	業況	1	7	4	12	▲ 25.0	▲43.8	18.8
	資金繰り	2	10		12	16.7	▲25.0	41.7
飲食・サービス業	売上	3	4	2	9	11.1	16.7	▲5.6
	採算	2	5	2	9	0.0	▲16.7	16.7
	仕入単価		2	7	9	▲ 77.8	▲41.2	▲36.6
	従業員	6	3		9	66.7	33.3	▲33.4
	業況	1	6	2	9	▲ 11.1	11.1	▲22.2
	資金繰り	1	7	1	9	0.0	▲11.1	11.1
不動産・その他	売上	3	7	6	16	▲ 18.8	▲26.3	7.5
	採算	3	10	3	16	0.0	▲38.9	38.9
	仕入単価		6	10	16	▲ 62.5	▲63.2	0.7
	従業員	8	8		16	50.0	52.6	2.6
	業況	3	7	6	16	▲ 18.8	▲20.0	1.3
	資金繰り	1	13	2	16	▲ 6.3	▲36.8	30.5

(全体)

仕入単価、従業員以外では前回より改善する見通しとなり、採算では30ポイント以上、資金繰りでは20ポイント以上改善し、資金繰りではプラスに転じる見通しとなる。一方、仕入単価、従業員ではあまり悪化しないが、DI値を見ると仕入単価が▲60ポイント近く、従業員が50ポイント以上とさらに厳しい状況が続く見通しとなる。

(建設・建築業)

全項目において前回より改善する見通しとなり、特に採算ではDI値がプラスに転じ、売上、業況、資金繰りではプラスマイナスゼロまで回復する見通しとなる。仕入単価、従業員も改善はしているが、DI値を見ると、仕入単価が▲40ポイント以上、従業員が50ポイント以上と依然として厳しい状況が続く見通しとなる。

(製造業)

従業員以外では前回より大幅に改善する見通しとなり、売上、採算はプラスに転じ、資金繰りはプラスマイナスゼロまで回復する見通しとなる。仕入単価も30ポイント以上改善する見通しだが、依然としてDI値▲40ポイント以上と厳しい状況が続く見通しとなる。

(卸・小売業)

仕入単価以外は前回より改善する見通しとなり、特に売上、資金繰りでは40ポイント以上改善し、DI値も売上がプラスマイナスゼロ、資金繰りがプラスに転じる見通しとなる。一方、従業員では、DI値が10ポイント以上悪化し▲70ポイント以上と非常にマイナスポイントが高くなり、人手不足感がさらに強まる見通しとなる。

(飲食・サービス業)

採算、資金繰り以外は悪化する見通しとなり、特に仕入単価では30ポイント以上悪化しDI値▲70ポイント以上、従業員では30ポイント以上悪化し、DI値が60ポイント以上とさらに厳しくなる見通しとなる。一方、採算、資金繰りでは、DI値が10ポイント以上改善し、プラスマイナスゼロまで回復する見通しとなる。

(不動産・その他)

全項目において改善する見通しとなり、特に採算、資金繰りでは30ポイント以上と大幅に改善し、採算ではDI値がプラスマイナスゼロまで回復する見通しとなる。一方、仕入単価、従業員では若干は改善する見通しだが、DI値を見ると仕入単価は▲60ポイント以上、従業員は50ポイント以上と依然として人手不足感が続く見通しとなる。

